

厚生連に期待を

富山県農協婦人組織協議会副会長

大 田 文 江

厚生連とは全国何れの県農協組織にもあるのが建前だとおもっていた。だから第15回全国農協婦人大会が開催された時健康の分科会で、是非厚生連の設置をと、幾人かの婦人部代表から希望が出た時、厚生連をもつ富山県に幸せを感じた。

農村医学研究会が富山県で発足したときも、秋田県や、鹿児島島の婦人部がいかにこの地元の研究会をよりどころに活動をしていたかを知らされていたせいか、現在富山県婦人部協議会が成人病予防対策と、「薄い血の追放」に懸命になっている折でもあったので大変有難い事だと思った。

家庭でも社会でも働きざかりの30代、40代の農村婦人に多いという薄い血、そしてこの薄い血が子供や孫にまで引くと聞かされてはまことにおだやかでない。殊に最近のように多い交通事故や手術の場合、輸血に役立たぬ時もあるとすれば自身にとっても危険なのである。

農村の婦人の我慢強さは、美德のようにいわれて来たけれど、家族の健康を守るためにはまず自分自身が健康でなければならない。薄い血の原因が案外身近な過労、すい眠不足、タンパクの不足だとすればがまん強さも美德にはならないの

である。それだけでなくさへ、わかっているが無理をし勝な農家の生活なのだから——

私達の住んでいる梶山村は成人病予防対策には相当自信をもっているつもりであった。結核予防レントゲン検診、婦人科を含む成人病予防検診等また血圧、血液の測定検査、とくに農協に体力テスト用に高価な機械も購入して、改良普及員、生活指導員がグループ毎、に調査にまわるなどその結果も余り悪い様ではなかった。それでも1年間1,320名 3割自己負担による医療費が 18,893,745円というぼう大な数字はまことにショックであった。この中には交通事故に依るものもある事と思うけれど大変な出費である。

今後、私達リーダーはもっと、こまめに地域の健康活動に力を入れ薄い血のこれもまた原因といわれる妊娠中絶等についての問題などとりあげてゆきたいと思うと同時に先般厚生連より発行された「我が家の健康手帳」を読書会グループの集会に活用させたいと願っている。

厚生連は一見地味であるけれど、実に重大な役割をもっていると思う。私達の期待と希望に是非御協力を頂きたいものだと思う。